



森の京都

第40回

全国育樹祭

育樹の輪 ひろげる森と 木の文化

10月9日(日)、「育樹の輪 ひろげる森と木の文化」をテーマに、第40回国育樹祭が京都府南丹市「府民の森ひよし」を会場に開催されました。

森林と木の文化を次の世代へ

全国育樹祭は、健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えるため、昭和52年から毎年秋に開催されている国民的な緑の祭典です。全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇太子殿下がお手入れされる育樹運動のシンポルの行事と、皇太子殿下によるおことばや各種表彰等の式典(行事のほか、参加者による育樹活動等の行事が行われています)。

式典前日のお手入れ行事では、平成3年に天皇皇后両陛下がお手植えされた北山スギとシダレザクラに、皇太子殿下がお手入れとして剪定と施肥を行いました。

世代を超えて繋ぐ「育樹の輪」

南丹市「府民の森ひよし」で開催された式典行事には約4,000人が参加。皇太子殿下のおことばにつづい

て、森林の育成や林業の発展に貢献した個人・団体を対象とした緑化功労者表彰や、山本有二農林水産大臣から全国各地の緑の少年団へ「みどりの贈呈」が行われました。

その後、京都府が育んできた「京都の森と木の文化」を次世代へと繋ぐ「育樹の輪」として表現した北山スギ枝打ち、丸太磨きの実演や森林・林業の担い手による誓いの言葉、国土緑化推進機構の佐々木毅理事長による大会宣言等が行われ、式典は幕を閉じました。

次回、第41回国育樹祭は「森を育てる豊かな暮らし 森が育む確かな未来」をテーマに平成29年秋に香川県で開催される予定です。



皇太子殿下によるお手入れ(施肥)

皇太子殿下のおことば

第40回全国育樹祭が全国各地から多くの参加者を迎え、ここ京都府の「府民の森ひよし」において開催されることを喜ばしく思います。

京都府は74%を森林が占める緑豊かな地であり、とりわけ、京都丹波高原を中心とするこの地域は、かつては平安の都の造営を支え、今日では、北山スギに代表される木材、丹波くりや京野菜などの豊かな恵みをもたらし、長きにわたって人々の暮らしを支え、文化を育んできました。

豊かで美しい森林は、国土の保全や水源の涵養^{かん}、木材の生産など、人々の生活にとってかけがえのない役割を果たすとともに、地球温暖化の防止や生物多様性の保全など、地球環境を守る上でも期待が大きくなっています。

こうした森の大切さを思うとき、緑を守り、大切に育ててこられた先人に感謝するとともに、この豊かな森を次の世代に引き継いでいくことが、今を生きる私たちの務めであると考えます。

昨日、私は、山城総合運動公園ふれあいの森で、平成3年の第42回全国植樹祭において、天皇后両陛下がお手植えになった京都府の木、北山スギと、京都府の花、シダレザクラの、手入れを行い、お手植えの木々が、25年の歳月を経て、府民に親しまれ大きく成長している姿に感銘を受けました。

そして、京都府では、林業関係者だけでなく、企業やボランティアの皆さんなど幅広い府民の皆さんが参加して森づくりを進める「京都モデルフォレスト運動」が、今年、10周年を迎えることを聞き、心強くまた喜ばしく思いました。

本日、表彰を受けられる方々を始め、日頃からそれぞれの地域において、国土の緑化に尽力されている全国の皆さんに敬意を表するとともに、そうした活動が、これからも多くの人々に支えられ、更に発展していくことを期待します。

終わりに、この大会のテーマである「育樹の輪 ひろげる森と木の文化」にふさわしく、森林を守り育て、木とともに人々が暮らしてきた文化が、ここ京都の地から全国へ、未来へと継承されていくことを願い、私の挨拶といたします。



第40回全国育樹祭プロローグ(狂言「柿山伏」)



山本農林水産大臣から緑の少年団へみどり(苗木)の贈呈



メインテーマアトラクション「広がる育樹の輪」



メインテーマアトラクション
「京都の森と木の文化」(北山スギ枝打ち)